

棚田に吹く風

2015
秋
Autumn
季刊

2 特集

棚田の天日干し

5 フォトエッセイ

田園芸術のすばらしさ

6 棚田・里山からのたより

こころの過疎化にならないために
棚田を生かして
福島県河沼郡柳津町久保田地区

8 « 田んぼに入る絵描き »の

棚田見聞録

ヨネちゃんの ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

9 棚田博士は今日も行く

備前山地の棚田
岡山県和気町田土

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの かつどうノート

スタッフのつぶやき

15 Project Report



特集

棚田の 天日干し



稲刈りもほぼ終わり、田んぼはシーズン終了の趣。近年はコンバインによる収穫、籾の機械乾燥が主流ですが、棚田地域ではまだまだハサ掛けによる天日干しが見られます。その風景はどこかなつかしく、郷愁をそそられます。

ハサ掛けは、地形や風向き、日当たりなどにより、地域によっていろいろな形があります。呼び名もいろいろ。ハサ（ハザ）、ハセ（ハゼ）、ハデ、オダ、稲木もしくは稲架（いなぎ）……。今号の特集は「天日干しのいろいろ」です。

なぜ棚田には「天日干し」が残っているの？

一番の理由は、棚田は面積が小さくて大型のコンバインが入らないため、小型のバインダーや手刈りで稲束として収穫するので、天日干しにせざるを負えないということが挙げられます。

もう一つは、棚田はほとんどが大規模な流通米ではなく、小規模な自家消費米や縁故米として作るので、手間がかかっても出来るだけ美味しいお米を食べたいという農家さんの思いもあるかもしれません。実際、天日干しをするとお米のアミノ酸と糖度が高くなるそうです。また稲を逆さまに吊るすことで、籾の栄養分が米粒へ降りて旨味が増すともいわれています。

もちろん、棚田は体験田やオーナー田として利用されることも多く、昔ながらのお米の作り方を伝えようと、「天日干し」をイベントとして行っているところもあります。

天日干しのいろいろ

天日干しは、刈り取った稲の約20%の水分を、1〜2週間干して、約15%の水分量にすることが目的ですが、その干す形が地域によって、さまざまところがとても魅力的です。

一番オーソドックスで全国的に見られるのが、竹などを組んで、1段〜2段に掛けるタイプの「ハサ掛け」です。最近では、ガードレールをハサにしているなんてところもあります。北陸などでは、並木を利用した10段以上の高いハザもみられます。また、東北地方でよく見られる、一本の杭を中心に稲を重ねていくタイプの「杭掛け」や九州などの乾田で見られる畦や田んぼに直接置いて乾かす「地干し」などがあります。

1〜2週間の短い棚田の秋の風物詩ですが、ぜひ個性的な天日干しの形を見つけて見てください。



ハザに掛ける

1段のハザ

竹などを利用して、刈り終えた田んぼの中に作ります。全国的に見られる形です。

高いハザ

新潟、北陸、信州など

8段や10段、12段もあります。上の方の段になると、大人が登り、下から投げ上げられる稲束をキャッチして掛けまします。投げるのは子どもの役目だったとか。



ヨズクハデ

島根県大田市西田地区

今ではもうここにしか残っていない伝統技術です。形がヨズク（フクロウ）に似ていることからついた名前。



棚田の 天日干し

杭に重ねる

杭掛け

東北地方

交互に十文字に掛けていきます。
1週間ぐらいたったら、稲を裏返し
ながら隣の杭に掛け替えて、さら
に干します。そのため、いちばん
端の杭は空けておきます。隊列を
組んだ兵隊さんのような風景。



ねじりほんによ

宮城県栗原市栗駒地区

このあたりでは、普通の杭掛けを「ほんによ」、らせん状に掛けていくものを「ねじりほんによ」といいます。ねじりほんによは風通しが良いため、掛け直す必要はないそうです。

地面に置く

地干し

地面にそのまま置いて乾燥させるやり方。
昔は全国的に行われていたようです。



長崎県平戸市

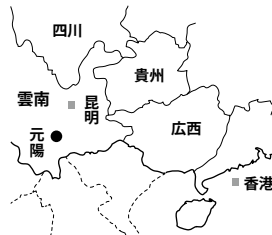


雲南省元陽の棚田

田園芸術の すばらしさ ～中国編

中国の棚田が写真家に好まれる理由の一つは、「霧の出現」にあると思われます。雲南省元陽県や紅河県では高頻度で出現し正午ごろまで続く、また、一日中霧の日さえあります。紅河県の観光冊子には霧が特産と記されています。霧がなぜ好まれるかと言えば、像を幻想的にするのです。このボカし表現は、霧の他に明暗、斜光、露出、ピント、レンズ、シャッター、フィルターなどの選定で行えます。今主流のデジタルカメラは、暗部も詳細に取り込むためこの種の表現には向かない。全てを見せずに、想像・ボカしを楽しみましょう。

写真・文 森 公夫



森 公夫 もり きみお



1941年 千葉県に生まれる。2001年 運輸会社を定年退職、写真を趣味として現在に至る。

所属写真団体 日本写真作家協会

●コンテスト入選歴：フジフィルム、JPA、二科

●個展「猿だより」 2011年6月 新宿 シリウス

●個展「時空アメリカ西部」 2012年5月 四谷 ボートレーティングギャラリー

●個展「梯田—通天之路」 2014年3月 新宿 シリウス





こころの過疎化にならないために棚田を生かして

福島県河沼郡柳津町久保田地区



1：久保田地区から見た棚田の全景／2：田植え体験／3：稲の手刈り作業／4：稲束のさでがけ作業
5：種まき体験／6：体育館を利用した婦人部の味噌づくり体験／7：棚田を利用したロケ風景

地域のすがた

「久保田地区」は、会津地方柳津町の中心部から南東13km、高尾嶺の麓に位置し、標高500mで典型的な中山間地の集落です。世帯数40戸、人口90名、高齢化率56%の地区です。農業者のほとんどが高齢者で小規模経営ですが、周辺には美しい棚田(約14ha)が広がり、山から湧き出る清水を利用して、清流の米づくりが行われています。

むらづくりの動機、背景

久保田地区では、地区住民の高齢化の進行等に危機感を感じ、地区の会合のたびに、地区の活性化を話題にあげて検討してきました。

これらの話し合いの中で、地区には江戸時代から200年近く守ってきた地区の宝である「三十三観音」があり、これを活用した地域おこしはできないか考えられ、平成8年から、「久保田三十三観音

まつり」をイベントとして開催することとなり、県内外から多くの参加者が訪れるようになりました。しかし、人口の減少や高齢化の進行に歯止めがかからず新たな解決策を見つけようとしていました。

棚田オーナー制度設立に向けて

地域おこしを模索していたこの頃、会津大学短期大学森教授との出会いがありました。平成19年10月に、森教授から「久保田地区の美しい棚田等を活用して、『体験交流型グリーンツーリズム』をやってみませんか!」と声をかけられたのです。これがきっかけとなり、久保田地区の活性化のために、是非取り組もうということになりました。

これを契機に、地区説明会や、先進地研修会を開催し、知識の習得を図りながら、久保田地区で取り組むという意志固めを進めていきました。その後、平成20年1月から3月にかけて地区民により話し

合いがもたれた結果、グリーンツーリズム事業を実施することが決まり「久保田グリーンツーリズム推進協議会」が設立されました。

平成20年度は、準備期間として各種の体験事業に取り組み経験を積むことから始めました。この体験事業では、開催の都度、参加者を募集する必要があり、非常に手間のかかる仕組みでした。

この課題克服のため、年間を通じて参加者を固定化する「棚田のオーナー制度」を導入しオーナーを募集することとしました。オーナーを募集する際に、関係機関のご支援と過疎問題に関心の深かった大手新聞社の関東版に棚田オーナー募集の記事を掲載することができ、関東圏から多くの参加者を得ることができました。

経過と現在の活動

平成21年から本格実施した棚田オーナー制度への参加者は、平成21年は19組70名であり、その9割は首都圏在住者でした。中心的な体験事業は、米作り作業体験（田植え、草刈り、収穫）、年3回のふ

るさと体験（郷土料理づくり、ジャガイモ掘り、収穫祭等）のイベントを行っています。

平成23年は東日本大震災や原発事故、新潟・福島豪雨の影響によりオーナー数が大幅に減少するかわれられました。柳津町の放射線量や棚田から収穫した玄米の放射性物質の検査結果の情報提供等を行った結果、安全で安心であることを理解され、前年度と同程度の参加がありました。

その後のオーナー数及び参加人数の推移は、リピート率が9割以上と高く、20組前後50名程度と長期参加型のオーナー制度として定着してきています。

伝統的体験メニューの拡充と遊休施設の活用としては、手作り感いっぱいの農業体験をしてみよう、種もみの手まきや手植えで「田植え」を行いました。「田植え」の際には、定盤（田植え定規・苗



観音山の観音像中でも人気のマリア観音

棚田へのアクセス

【公共交通】 JR只見線・滝谷駅よりタクシー（要予約）にて9km、約20分。JR会津柳津駅から町民バスによる乗り継ぎ便も利用可能。

【自動車】 磐越自動車道・会津坂下ICより国道252号線を南下、県道366号、32号、59号線経由で21km（約40分）。目標は久保田集落入口の大けやき、ここを右折し約5分。

お問い合わせ

柳津町役場 農林振興班
Tel. 0241-42-2116



を植える場所の印を付ける道具）を使いました。収穫は、手刈りや「さでかけ」して天日干しにしています。オーナーはこの天日干しのコマを配布しています。

また、大豆の保存食である「うち豆」や笹巻きづくり、昔ながらの味噌づくりやそば打ちなどの伝統食に加え、布草履などの生活用品づくりが、棚田オーナーのふるさと体験メニューに盛り込まれ、地域の若い世代への継承の機会ともなっています。また、毎年行われる収穫祭では、そば打ちや「つす」と「きね」を使った餅つきを行っています。これらの体験の拠点として、廃校になった体育館の利用

と、教員宿舎を自炊型宿泊施設に改築するなど、地域の遊休資源の有効活用にもつながっています。

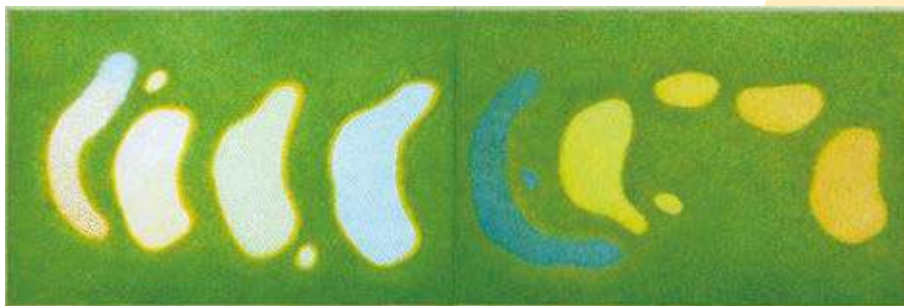
新たな動き

久保田地区は、平成26年5月から撮影が開始された「ジヌよさらば」のロケ地に選ばれ、自然豊かな棚田の景観等が大きく評価されました。主人公「竹見武春（松田龍平）」が耕作した水田は、地区の棚田を舞台としており、地区住民も多数エキストラとして出演しました。今では、棚田を中心としたロケ地めぐりが行われ多くの人たちが訪れています。

（柳津町久保田グリーンツーリズム推進協議会）

田んぼに入る絵描きさんの 棚田見聞録

絵・文
酒井英次



金山さんの田んぼ(61×182cm 2014年9月)

岩手県一関市舞川の丘陵地に、棚田博士が以前本誌で紹介され「拓かれた時の姿がそのまま残されている棚田である」と述べられた金山さんの田があります。

私も春、秋何回か見に行きました。今回描いたのは溜め池のある上側の田ではなく、金山さんの家の下側の浅い沢状のところにある田です。上側の田と同様に古式を残した貴重な田と思います。

地形に逆らわず、凹凸をうまく利用した田のさまは、正に自然と人が作り出した文化的景観だと思います。

これからも、このような言わば手造りの田を探し、描いてゆこうと思います。

金山さんの田は一関市街地からも近く(車で約30分)にあります。この付近に行きましたら是非、立ち寄ってください。

ここには体験コースと保全コースがあるの。体験コースは一般的なオーナー制度と同じ、年会費を払って決められた区画で年数回の農作業に参加するタイプ。自分の区画で収穫したお米はすべて持ち帰れるわ。農作業経験が無くても地元農家で構成される「名月会」に指導していただけるから安心よ!



第六回目は長野県千曲市の姨捨棚田。棚田の水面に月が移りゆく光景を「田毎の月」といって、その神秘的な美しさから多くの俳人が訪れたことでも知られているわ。今回はそんな「名月の里」姨捨棚田の「棚田貸します制度」を紹介するわね!

保全コースは、作業には参加せず、年会費を払って棚田保全に協力したいという人のためのコース。収穫された玄米20kgを送っていただけて、希望すれば田植え・稲刈りの体験ができるそうよ。



応募資格などの詳しい情報は、信州とおき情報WEBサイト内の「姨捨棚田」紹介ページをチェックしてみてくださいね!
<http://www.mtlabs.co.jp/obasute.htm>



※棚田オーナー募集地域紹介サイト⇒ [棚田百貨堂](#) 検索

ヨネちゃんの



ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

第六回

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

備前山地の棚田

岡山県和気町田土



なかしま みねひろ 中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

岡山県和気町は県の南東部、平
安時代の高官和気清麿呂の出身地、
平成の大合併で北の佐伯町を合併
した。田土は、旧佐伯町吉井川左岸、
標高300〜400メートルの備前山
地の山麓緩斜面にある集落。岡山
県が1993年当時に実施した美
しい村保存事業地区の一つに、棚
田百選でもある美咲町大坪和西や
久米南町北庄とともに優れた棚田
景観地として選ばれ、その存在は
早くから知られていた。

2014年の夏7月と9月に2
度ほど訪ねた。新幹線の停車駅兵
庫県相生に前泊、翌朝在来線の普
通列車で和気へ向かう。

和気駅始発の周匝行きのバスは
吉井川に沿って国道を北上する。道
の左は吉井川、右はかつて片上と
日本最大の硫化鉄産地であった棚

原を結ぶ片上鉄道跡地を利用した
自転車専用道路が走っている。河
本で下車、天石門別神社横を通り、
東へ向かう。田土橋を渡ると緩や
かな坂道、アップダウンを繰り返
し、下田土の畑ヶ市、丸山の集落
を過ぎれば上田土になる。上田土
は大畑、杉平の2集落からなり、
大畑は田土川の南、北の杉平が目
指す棚田である。

第一級の棚田景観

棚田は、標高90〜270メートル、田
土川の上流部に当たり、用水路と
しても利用されている渓流を中心
にする南向きの傾斜4分の1の斜
面に拓かれている。棚田を下・中・
上流部にわけてみると、下流
部では2本の渓流により3ブロッ
クにわかれ、地籍図によると平均

的には一枚が5〜6メートル、大きいも
のは15メートル以上の広さがある。形状
は、平均的棚田が細長く湾曲して
いるのに対して大きいものは矩形
に近い。その形状から畝町直しさ
れたものと考えられる。石積みの高
さは1メートル前後、20段近くの段数
が数えられる。下流から中流部にか
けての西端、小字名で五反田と
よばれる部分はまとまった放棄地
になっている。

中・上流部は、渓流によって東
西2つのブロックにわかれ、1枚
が2〜3メートルの広さ、畝町直しされ
た5メートル以上の棚田もみられる。石
積みの高さは2メートル前後、なかには

4段を超えるものもある。それぞれ25段前後の段数があり、上段の棚田の浸透水を再利用する暗渠や盲暗渠がところどころにみられる。暗渠は縦横60センチほどの横穴、奥行は暗くてよくわからないが数段程度。盲暗渠は横穴の天井板の下が石で埋められており、石の隙間から水が流れ出ている。

これら棚田の全体を俯瞰するのは、田土川の南岸大畑集落から眺めるのがよい。長さ1000段、上流部100段、下流部500段幅の斜面に、溪流によって2〜3ブロックに分かれて展開する棚田を正面にすることができる。比高差180段の斜面に70段以上の棚田が積み上がっている光景は壮観である。第一級の景観を誇る棚田が、

百選選定の折に行政の受け止め方に問題があったのか名乗りを上げず、選ばれなかったのは残念と言わざるをえない。

用水は、標高400〜450段の山頂緩地面に設けられている溜池群の一つ杉池に依存している。2011年に改修が終わり、地元負担金の190万円は中山間地直接支払で賄ったとのこと。溜池は堂々たるアースダム、貯水面の面積は2段以上、溜池から最上流の受益地水田までの用水路は「ちょうでん」と呼ばれている。この間の比高差80段、直線距離にして500段、迂回しているとはいえかなりの勾配。池の水を出すと、ちようでんを流れるゴーという水の音が集落まで聞こえるそうだ。

地元では「半夏(旧暦七十二候の半夏生、7月上旬)までは池の水を使うな」という言葉があり、池水は代掻きには使わず、梅雨明け十日の旱天時の養い水として確保することが現在でも固く守られている。生産調整が行われる前は交代で水番を置き配水を管理したそうで、池水の利用制限、暗渠の存在などを考えるとかつては水不足に悩まされた地区だったと考えられる。

退職後に専業農家になる

杉平では、自宅近くの棚田で草刈りをしていた赤田増海さんに出会った。赤田さんは65歳、妻60歳、母87歳の3人家族、子供2人は岡山市に住んでいる。備前市の東洋ベアリングに34年間勤務。定年後

さらに町内のケープル会社に3年間勤務した後、兼業農家から専業農家になった。夫婦が農業に従事、水田80段、40枚を所有、そのうちの40段、15枚を耕作、残りの転作田40段はソバ・野菜類・ヒマワリなどを栽培、植え付けをしてないところも草は刈っているという。機械類はトラクター(14馬力)、歩行型2条田植機、歩行型2条刈コンバインを所有、乾燥機はなく米は農協へ出荷しているそうだ。

赤田さんが最も多くの時間を割いているのが草刈り作業。畦のほかに法面、農道も刈らなければならず、全部を刈るのにほぼ1か月を要するという。これを4回行うと5月初旬から10月下旬までの6か月間、草刈りに充てなければならぬ。夏の炎暑の時期は朝5時から作業を始め、7〜8時が朝食の時間、8〜10時が午前中の作業、暑さが和らぐ4〜7時が午後の作業という日々が続く。まさに雑草との闘いだ。

現在杉平地区の中山間地域等直接支払の代表を務めておられる。地区の地籍図を広げられ、現在耕作されている棚田は50〜60段ではな



1・2・3：田土棚田
／4：重末さんと息子さん／5：草刈りをする赤田さん／6：堂々たる溜め池

いかと推測される。中山間地直接支払の集落受取額が約200万円というから耕作面積はおよそ10畝、それが全体の5割とすると全体の棚田面積は20畝になる。現在の戸数23戸のうち、4戸が離農、今後離農する農家はさらに増えるだろうと仰しやる。

数年かけて畝町直し

赤田さんが同道して先輩の重末實さんを紹介して下さった。重末さんは67歳、同じ年の奥さんと二人暮らし。57歳まで地元農協に勤務、退職後66歳まで県の臨時職員を勤めた。15年前に父親が亡くなってから農作業も担う兼業農家になったが、現在は10年前に保母さんを辞めた奥さんとともに農業に専念する専業農家だ。

水田90[㍔]、畑40[㍔]を所有、水田は30[㍔]が休耕、20[㍔]が畝町直し中なので実際に耕作しているのは40[㍔]。休耕田と親族から預かっている30[㍔]、自家菜園として利用する以外の畑地は草刈りして管理している。機械類はトラクター（17馬力）、乗用型4条田植機、乗用型4条刈コンバインを所有、大きな機械を使っ

ても手作業による手直しが多くあるという。赤田さん同様、乾燥機は所有せず、米は農協へ出荷しているそうだ。

現在労力を注いでいるのが、棚田10枚を1枚20[㍔]にする畝町直し。中古のコンボを購入、県職員である息子さんと一緒に取り組んでいるとのこと。息子さんを手伝わせるのは後継者意識を植え付けるための配慮ではないだろうか。その現場に案内してもらったが、耕土は薄く巨礫だけが目立った。現在耕作している棚田でも耕土は10[㍔]程度と浅く、トラクターを使用すると、刃にあたってガリガリと音を立てるそうだ。作業は、下段の耕作者から雨の後白濁した水が出



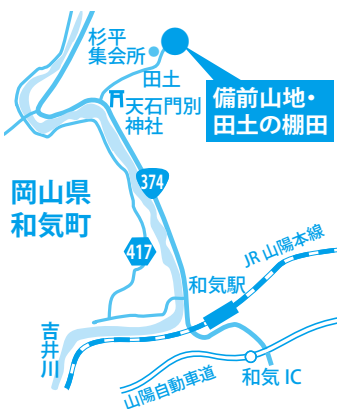
畝町直しの途中。完成は4年後？

るのでイネの栽培中は止めて欲しいという苦情があり、中断しているという。このため、完成は重機を使ってもさらに1年延び4年後になるかもしれないという息の長い仕事である。このことから、重機を持たない農民が人力のみで最初に田土の棚田を拓いた時のことを考えると、「棚田は農民労働の記念碑」といわれる所以が実感をもつて理解できるであろう。

現地で会ったお二人は、企業や農協を退職して兼業から専業農家になった人たちである。しかし、

農業を生業として行っているのではない。その収入は微々たるものであり、生活は年金に依存している。日常の生活のなかで最も多くの時間を割く草刈りや、農地保全のために行う畝町直しなどの作業は、農業が持つ社会的役割としての仕事である。というより、お二人は先祖伝来の土地を守るためという意識の下で作業されているのではないだろうか。

備前山地・田土の棚田へのアクセス



【公共交通】 山陽本線・和気駅前より日生運輸バスの周回行きに乗車、河本（天石門別神社前）下車、徒歩にて約3kmの杉平集会所を目指す。

【自動車】 山陽自動車道・和気ICより国道374号線を9.7km北上、天石門別神社前を右折し更に3km。目標は杉平集会所。

棚田と首地蔵巡りはいかが？

山梨県甲州市 豊岡 翠

今年の春から山梨の棚田担当をしている豊岡です。東京を離れて早1年半、天気の良い日は富士山、南アルプスを眺め、果物王国ならではのサクランボや桃、葡萄畑に囲まれた生活をしています。一方、山梨のお米というと「武川米」はあるものの、ぴんとこない方が多いのでは？

ところが、散策してみると、山梨には意外とたくさん棚田はあるものです。おすすめは、私が山梨担当としてお世話になっている甲府盆地と南アルプスを望む絶景の棚田（甲斐市御領の棚田）、そしてもうひとつ、山梨での本業・不動産業の仕事で訪れた古民家のすぐそばにある水口の棚田（山梨市水口）です。葡萄畑を抜け、山間の風情ある集落にたどり着くと、棚田と古民家、そして富士山を眺めることができます。私がこの水口の棚田を好きな理由がもう一つ。それはこの水口地区には「首地蔵」という、エジプトのスフィンクスを彷彿させる巨石像があること。巨大な石に首だけが乗っかり、道路に少しはみ出してたたずんでいます。夜中に通った人はびっくりしそうなこの首地蔵、脇には首地蔵の謂れが書かれた看板が。

『この石仏は「首地蔵」という。造立時期は定かでない。

伝へによると、今から数百年前、この地域に大雨が続き山の地盤がゆるみ、大きな土砂崩れがあり組内数戸が崩壊したる或日、山の中腹より巨岩が転落し、齡い十二・三才の子守娘と背負いたる赤子が下敷となり死亡した。

上：水口の棚田／下：首地蔵



以来、この地域の赤子がひどい夜泣き、何かにおびえるようになった。落ちたる巨岩からは夜になるとすすり泣きの声が聞こえたという。住人からは、娘の霊が祟っていると噂された。

その後、この地域を訪れた旅僧がそのことを聞く、娘の慰霊のために石を削ってこの地蔵の首を作り巨岩の上に乗せ供養をしたところ赤子の夜泣き等はすっかりおさまった。村人たちは「首地蔵」と仰ぎ、香華を捧げ怠ることはなかったという。

また、この道路工事に伴い地蔵を撤去しようと石屋が地蔵に穴を開けた際及び人夫が地蔵を現地に動かしたところ、いずれも病や怪我に遭遇している。

信仰と祭りとしては、霊が宿っているので毎年春彼岸の中日、組を挙げて祭典供養が現在も行われている。

首地蔵鎮座により住民の護念を願い記す。

平成十二年三月 水口区中組（引用）

なんと恐ろしい謂れでしょう。この首地蔵がいつこの場にできたのか、謎は深まるばかりですが、調べてみると山梨県内では他にも数か所、同じような「首地蔵」があるのだそうです。

東京から片道1.5時間の好アクセスの山梨県。新たな棚田スポットとして、棚田巡りと謎の巨石像「首地蔵巡り」なんていかがでしょうか？

会員のひろば



会員の声募集！

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！ご要望、感想やご質問でもOK！（会員の声8000字まで、会員レポート4000字まで。写真も添えて）〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1ハリー六 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています。hiroba@tanada.or.jp

会員レポート

サミット10周年記念 四谷の千枚田でシンポジウム

岐阜県可児市
相田 明

第11回全国棚田（千枚田）サミット（2005年秋開催）から10年を記念するシンポジウムが、2015年9月5日（土）に愛知県新城市（四谷の千枚田）で開かれました。

まずは四谷の千枚田の現地見学会（自由参加）、その後、シンポジウムが連谷小学校を会場に開催されました。開会挨拶、来賓祝辞の後、和太鼓集団「志多ら」の演奏がありました。基調講演は中島峰広当代表による「日本棚田百選とこれからの棚田」で、棚田の文化的価値についての歴史的な解説と、今後の棚田保全の方策に関する方向性の提案がありました。車座会議「これからの千枚田を語ろう」は、アドバイザー中島峰広代表、パネリストは新城市の穂積亮次市長、坂折棚田保存会の田口譲理事長、当会の高野光世理事、進行は鞍掛山麓千枚田保存会の小山舜二会長が務めました。連谷小学校が本年度末に閉校することから、その利活用策として、棚田を核とした地域づくりの拠点にできないか、また高野光世理事からは「さまざまな問題があるのは確かだが、応援して欲しいことがあればそれらの情報を積極的に発信することが重要」などの意見がありました。最後になりましたが、サミットが開催された同じ年に愛・地球博も開催された際、当会の企画展示に対して四谷の千枚田の方々にも多大なる支援を頂きました。お礼申し上げます。



棚田に思う



会員さんから寄せられた棚田の雑記。「棚田に思うこと」を語ってもらいます。

「大地の芸術祭」のお手伝い

大地の芸術祭は新潟県十日町市と津南町で3年に1回、7月末から50日間開催で今年は6回目。東京23区程度の面積に新旧併せて380の作品が点在する。

この作品制作の手伝いや会期中の作品管理、会期後の撤収などの現地活動に都会から多くの人が参加する。これが「こへび隊」といって、私もその一人。前回と比べ、日本の学生が少ない、その隙を埋めたのが香港、台湾などの学生が主の海外勢、片言の日本語で作品管理をこなしていた。彼らの発信力は強く、今後どうリピート対策をするか。海外客の対策共々、見続けて行く必要がある。

この地域は有名な星峠の棚田ばかりでなく、儀明や蒲生、結東、三箇など多くの棚田をかかえる集落が200程度ある。私に通っている浦田や飛渡など知人の顔が浮かぶ所も多い。いつまでも私のようなよそのものにやさしい地域であってほしい。地域の人の笑顔が見たいというさやかな希望だけで通える。室野で去年廃校になった奴奈川小はこれから、棚田バンクの拠点になり、農業女子を雇って、サッカーのなでしこをめざす。会員は二千人を目標という、担い手の構成が力ギ。

(千葉県浦安市 秋元勝治)



集落の中に作品が点在する



私



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



©「おおかみこどもの雨と雪」製作委員会

2012年／日本／監督：細田守
販売元：バップ／価格：DVD：¥4,800+税/
Blu-ray：¥6,800+税
収録時間：約117分+特典映像

おおかみこどもの雨と雪

今年『バケモノの子』の大ヒットも記憶に新しい細田守監督の2012年の長編作品。狼と恋に落ちた人間の女性「花」。やがて狼人間とのハーフの子どもたち「雨」と「雪」が誕生します。訳あって花は一人で子育てをしていくことになり…。この映画、実は細田監督の出身である富山県上市町が舞台で、劇中では東穂地区の棚田も幾度となく登場します。近年では映画を見たファンの方が「聖地巡礼」としてこの地を多く訪れるようです。アニメーションとは思えない美しい自然風景も必見です。



地域おこし協力隊

——日本を元気にする60人の挑戦



椎川忍ほか編著
¥1,800(税別)
学芸出版社
2015年9月

これは「入り口の本」である。300ページ弱の中に、現役協力隊員やOB・OG、行政職員、関係者など70人近い(何と欲張りな!)人の思いのたけや活動のエッセンスが詰め込まれている。ここから、さらに突っ込んだ論者に進むのでもいいが、それよりは直接誰かに会って、より深く話を聞いてみたい。地域おこし協力隊とは、今まさに生きている「現在進行形」の人の動きなのだから。最後に載っている「チエクリスト」は、これが本当に活用されれば失敗もすいぶん減るだろうと思わせる。

佐渡プロジェクト打ち合わせ

2015年9月14～16日 報告 高桑 智雄

今年は諸事情により佐渡ツアーを開催できませんでしたが、今後のプロジェクトの打ち合わせと、来年佐渡市で開催される「第22回全国棚田(千枚田)サミット」への企画提案会議に参加するため、スタッフ2人で佐渡を訪れました。

新穂地区でボランティア活動をする東京工科大学の学生との交流会、岩首棚田の草刈り作業、佐渡棚田連絡協議会や地域おこし協力隊の方々とサミットへの企画提案会議、佐渡市役所の方々との打ち合わせと、内容の濃い3日間となりました。



旧暦棚田ごよみプロジェクト始動!

報告 内田 千鶴

今年も始まりました、旧暦棚田ごよみプロジェクト。4年目の今年は、デザインも一新、かねてより希望の声が多かった「卓上版」も製作しました!

よりパワーアップした平成28年度版の棚田ごよみを、表紙の浜野浦棚田がある佐賀県の玄海町で先日行われた「全国棚田サミット」で一足早く、先行販売させて頂きました。ブースに足を留めて下さる方は皆さま様に、棚田の美しさ、旧暦の良さを口にもされます。驚異のリポート率の所以です。今回も会員の皆さまには購入特典をご用意しています! 詳しくはHPにて!



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人
事務局
ウッチー

8月、真夏のバカンス真っ最中にポルトガルへ訪れる機会を頂いた。6年ぶりのリスボン、陽気な人々や大西洋の青さは相変わらず。しかし今回のメインは、リスボンではなくさらに北部、世界遺産の都市・ポルト。そしてその先のポルトワインの産地、これまた世界自然遺産であるドウロ渓谷だ。

ドウロ川沿いの小山にびっしりと造られた段々畑。その全てがワイン生産のためのぶどう畑というのだから、圧巻である。以前に訪れた、中国の広大な棚田を思い出した。

前日は知人の紹介でポルト市内のワイナリーを訪れて、ポルトワインの醸造過程などを学ばせて貰った。ポルトワインは、別名酒精強化ワインとも呼ばれていて、通常のワインと違い発酵途中にブランデーを加えて酵母の働きを止めるのが特徴。それ故アルコール度数も高く、甘く独特な喉越しとなる。フランスの「シャンパン」同様に「ポルトワイン」の呼称が付けられるワインも極めて限定された条件下の元で製造されたものに限られる。すなわち、最終的な熟成地域が必ず「ポルト」である必要があるのだ。広く薄暗い倉庫内に大きな樽が並ぶ様はとても迫力があり、充滿する葡萄の発酵臭の芳ばいことといったら……。

ワインに詳しくない私でも、美味しいと思えるポルトワイン。とても甘くて、食前酒や食後酒として最適なので、見かけたらは是非一度お試しを。

ちなみにNHK朝ドラマ『マッサン』でも登場した寿屋洋酒店(現サントリイ)が明治39年に日本で販売開始した「赤玉ポルトワイン」はこのポルトワインに似せたもので、当時通常のワインの味に慣れていなかった日本人に、甘くて飲みやすいと大ウケしたとか……。

※現在は名称変更し「赤玉スイートワイン」として販売中。



千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

小雨の中、川代棚田で稲刈り体験



新しい体験フィールドである千葉県・鴨川市の川代棚田で、初めての稲刈り体験ツアーを8月30日(日)に実施しました。参加者は28名。当日はあいにく小雨が降る天候でしたが地元の農家の皆さんの指導のもと、少しぬかるんだ田んぼに足を取られながらも楽しい稲刈りを体験できました。稲刈り初体験の方もおり、最初は刈り取りや束ねるのに四苦八苦しながらも、だんだん要領もよくなり一時間ほどで終わりました。

気持ちの良い汗をかいた後の昼食は、地元のお母さん達の手作りカレー弁当を集会所でいただきました。

午後からは、都市農村交流施設「みんなみの里」、大山千枚田を見学し帰路に着きました。9月13日には川代米180kgを受け取り、予約注文者に9月末に発送しました。田植え体験ツアー、草刈り作業、稲刈り体験ツアーとそれぞれ参加された皆さま、大変ご苦勞様でした。今後とも充実した体験プログラムの企画に努めて参りますので、来年も参加よろしくお願ひします。(杉山 行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

棚田ビオトープの観察会と稲刈りを開催



夏休み・こどもビオトープ観察会を8月22日に開催。曇り空の中、参加者は9名、うち子供は5名。昨年から趣向を変えて、参加者(子供のみ)にカエルグッズをプレゼントしました。捕獲された生物はトノサマガエル、ニホンアマガエル、ニホンイモリ(成体、幼体)、サワガニ、ヒメアカタテハ、ショウジョウバッタ、コバネイナゴ、イトトンボの仲間、ヤゴ。カエルは子供には捕まえづらいようです。

また、棚田ビオトープの稲刈りを9月23日に開催。秋晴れの中、参加者は9名。名古屋から飛び入りの参加もありました。棚田オーナー制度の稲刈りのお知らせを見て、日程は分からないものの、「行き当たりばったり」で坂折棚田まで来たとのこと。ちょうど日程も時間もピッタリの棚田ビオトープの稲刈りがあって良かったです。今年は保存会の方の協力を得て、小さなはさ掛けを作りました。(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

草刈り～稲刈り・ハザ掛け～脱穀



8月22日、23日に2回目の草刈り作業、参加者はスタッフ含め6名で、畦塗りに引き続き2回目の参加の高校生もがんばりました!とにかく蒸し風呂のような状況で、汗だくになりながらの作業でしたが、この環境だからこそ稲は力強く育って行くんですね。それから1ヶ月半10月10日・11日には稲刈り・ハザ掛け作業を行いました。雨が降りそうなどより曇り空の中総勢20名ほどで、ひと束ひと束手刈りをしハザ掛け。出来栄はなかなかのようです。田植えをしてくれた子供達も大奮闘!「楽しかった?」と聞くと「ちょー楽しかった」と答えてくれました。稲刈りの約10日後には、スタッフで脱穀に行ってきました。11月23日(月・祝)は今年最後の収穫祭イベント「新米を食べる会」です。みなさんの参加をお待ちしています!(久野 大輔)

使いづらい、だけど美しい！ 始めてみよう『旧暦生活』

今年も作りました！

平成二十八年
旧暦
棚田
ごよみ

月の満ち欠けでひと月を知り、太陽の動きで季節の移り変わりを感じていた「旧暦」での暮らし。
旧暦棚田ごよみは、四季折々の美しい棚田の風景とともに、暦で「季節感」を味わうことのできる旧暦カレンダーです。

壁掛けタイプ

A4(縦210×横297mm) ※開くとタテA3サイズ



5部セットがお得！
贈答用にどうぞ！

¥1,200(税込)
5部セット
¥5,500(税込)

卓上タイプ

A5(縦210×横148mm)



¥1,200(税込)
5部セット
¥5,500(税込)



二十四節気
七十二候
雑節を表示

新暦表示
もあり！

注文サイト
QRコード



2タイプのセットもあります！ 壁掛け・卓上 各 1部セット ¥2,200(税込)

ご購入は TEL. 03-5386-4001 もしくは棚田ネットワークHPから
●お電話受付時間 13:00～17:00 ※土日祝をのぞく

※このカレンダーは、
旧暦の元日(平成28年は2月8日)から始まります。



わたしたちと『棚田の応援団』やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい！」という会員によって自主的に運営されているNPOです。
消えゆく美しい“棚田”をどのように保全していくことができるのでしょうか？一緒に考えませんか？ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員に
なると！

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員
維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 4,000円
応援会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています！

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

編集部から
自宅から最寄りの小田急線の駅に行くと、突然見慣れた棚田の風景が目飛び込んできました。なんとロマンスカのポスターに、棚田ネットワークがお世話になる静岡県松崎町の「石部棚田」がデカデカと掲載されていたのです。しかも、四季折々の写真が5枚も！
都心を離れ、同時に自分の生活からも離れて辿り着く、いわば異空間であるところの棚田が、突然自分の生活圏に現れるとても不思議な感覚。なんか「どこでもドア」がある感じと言ったらいでしょうか。
ともあれ、ストレス度の高い小田急ユーザーが、このポスターに癒やされたことは確かです。ロマンスカでは石部棚田に辿り着けない事実も置いておいて..。

ホームページのぞきを見て！

棚田ネットのWebサイト
イベント情報、ブログ等
随時更新中!!



<http://www.tanada.or.jp>



2015年 秋号 Vol.98

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565